

保育者と保護者の年少児に対する言葉がけの違い —保護者支援と養成校での学び—

Differences in wording for discussions about younger children between childcare workers and parents ~Parent support and learning at training schools~

栗原多恵^{*}
KURIHARA Tae

Abstract:

This is a study of what is required of a childcare worker by investigating whether there is a difference in language between the childcare worker and the guardian for young children. Since there was a difference in language between nursery teachers and parents, it is important to utilize their specialized knowledge to support parents, and it is necessary to further enhance communication between nursery teachers and parents.

キーワード:

年少児 言葉がけ 保護者支援 保育者養成 保育者の資質向上

1. はじめに

コミュニケーション能力は社会で生きていくために必要不可欠なスキルであるが、近年若者のコミュニケーション能力は低下してきている。少子化や核家族化、共働き世帯、ひとり親世帯などの生活様式の変貌により、幼児を取り巻く環境で人と人とが言葉を交わし合う場面が減少傾向にあるからである。幼児は日常生活から必要な言葉を習得していくため、身近で飛び交う言葉が幼児のコミュニケーション能力を高めていくために必要であると同時に、周囲の大人がどのような言葉がけをして関わっているのかが重要視される。

岩崎¹⁾は、幼児の遊び行動を充実させるために保育者のどのような言葉がけが必要とされているのか、運動遊びと集団遊びの二つ

の要素を取り入れた「鬼ごっこ」を年長児対象に行ない、結果を報告した。保育者は意図的方法を用いた言葉がけと受容的方法を用いた言葉がけをする中で、激しく動き回る活動では全体に対して十分な言葉がけが出来ない分、幼児一人ひとりに合った言葉がけとして幼児の名前を呼ぶなどしていた。その中で幼児の気持ちや表情、行動に影響を与えている場面が見受けられ、幼児の心身の発育・発達において保育者の言葉がけは重要な役割を果たしていることがわかっている。

麻生・花坂²⁾は、乳幼児期の発達基盤として音声を聞く(音声知覚)、音声を発する(音声表出)、コミュニケーション(対人関係)、物の認知(対物知覚)の4つの発達の基盤が重要であり、言語を獲得する過程では、乳幼

^{*}佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科 Sano Nihon University College Senior Lecturer

児と保育者が同じ活動をしながらかミュニケーションを図り、乳幼児が物や事象の意味を理解する手助けをすることが大切と述べている。また、保育者は幼児が発した言葉に対して、その言葉を発する姿勢そのものを認め、幼児が自分の考えや思いを正確な言葉で表現できるような援助をしていくことが必要と述べている。

これらの先行研究と筆者の幼稚園勤務の経験から、幼児の名前を呼び、続けて言葉をかけることは幼児に内容が伝わりやすいということが言え、幼児の心身の発育・発達において保育者の言葉がけは重要な役割を果たしていることがわかる。しかし、日常生活に起こりうる様々な場面での具体的な言葉がけについては報告されていない。

一方、今井・中村³⁾は、幼児期の子育てに関する親の悩み調査を行い報告している。満3歳になる幼児を第一子に持つ親を対象に、10年間にわたり3回調査した中では「食事の量が少ない」「よく甘える」「わがままである」「食事に時間がかかる」等の親の悩み数値が多い。岸本・武藤⁴⁾らも、幼稚園・保育所に子どもが通っている保護者を対象にして、幼稚園における子育て支援と相談に関するアンケート調査を行っているが、困りごととして「食事について」が上位を示し、次いで「言うことをきかない」「しつけに関すること」の数値が多いと報告している。

他方、丸目⁵⁾は、保護者支援の前提として保育者と保護者間のコミュニケーション調査を行ない、保育士の行う保護者支援の重要性を述べている。保育士の業務内容や働く環境設定など保育士が働く枠組みを規定する行政レベルでの取り組みが必要との問題解決の難しさを述べ、保育者個人のスキルが低いことも指摘しているが、保護者にとって保育所内で相談したい相手は担任保育士が87.7%と多く占め、一番子どもの状況を把握し、“顔の見える間柄”である担任保育士が相談相手

として圧倒的な支持を得ている。

また、高橋⁶⁾は、夫婦が持つ子どもの数が少なくなったことで、子どもの最善の利益を保障することが重要視され、子どもが大切にされる時代になったことや、保護者支援の後ろでは常に子どもの成長や発達を保障するということが含まれるため、保育者の保護者支援への変革さが報告されている。2015年4月から「子ども子育て支援新制度」が導入されたことによって、ますます保護者支援が重要となり、専門性を持った支援が求められるようになってきている。保育者は保育を行うことに重きを置きながらも、保護者一人ひとりの置かれている状況に配慮することも求められている。

幼児の心身の発育・発達において保育者の言葉がけは重要な役割を果たしているため、保育者の資質向上はもちろんであるが、子育てをしていく上では保護者の言葉がけも重要である。子育てに悩む保護者のニーズに合わせて、保育士というプロの観点から子ども達への言葉がけについて保護者支援していくことが必要だと推測される。

II. 目的

本研究では、子どもへの言葉がけの際“保育者や保護者はそれぞれ子ども達にどのような関わり、どのような言葉をかけているのか”年少児に対する保育者と保護者の言葉がけの違いを知り、保護者支援していくために保育者として身につけておくべきことは何なのかを明確にすることを目的としている。保育者養成校の学生は、実習で現場保育者の姿を見ることを通して、保育者の子ども達への関わり方や言葉がけの仕方、保護者対応などについて学びを深めている為、言葉がけについて関心が高い。特に年少児に関しては言葉が上手く通じないこともあり、子どもの話を聞く前に手を貸して援助してしまうという学生が多く見られた。保育所保育指針⁷⁾は、3歳児

以上児の保育に関するねらい及び内容において、運動機能の発達により、基本的な動作が一通りできるようになるとともに、基本的な生活習慣もほぼ自立できるようになる。理解する語彙数が急激に増加し、知的興味や関心も高まってくる。仲間と遊び、仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや共同的な活動も見られるようになると述べている。

年少児は、自我が芽生え始め、集団生活が始まり、多くの刺激を受けながら吸収が著しい時期である。その中で自分の思いを上手く相手に伝えられないとき、保育者が援助してしまうだけでは言葉の習得が出来ず、コミュニケーション能力が育たない。人と人とが言葉を交わし合う場面が減少傾向にあるからこそ、幼児の発した言葉の意味をくみ取るとともに、言葉そのものの魅力を大人が感じ、幼児への言葉がけを通して伝えていく必要がある。保育者や保護者がどのように関わって言葉をかけているのかを学ぶことで、保育者の資質向上や保護者支援に繋がると考えた。

先行研究では保育者の言葉がけが重要とあるが、一つの遊びの場面に対する言葉がけの調査ということから、生活習慣での具体的な言葉がけが見えにくかった。また、保護者は子どもとの関わり方について日々の子育てに対する難しさを感じ、悩みや困りごとを抱えていたが、相談相手として支持を集めていた担任保育士の具体的な保護者支援については報告されていない。そこで、保育者と保護者では、子どもとの関わり方に違いがあるのか、日常生活の中でどのような言葉がけがされているのかを調べることにした。生活習慣や友達との関わりとして、苦手(嫌い)なものを食べずに残しているとき、トイレに行くのを嫌がる時、身支度(お着替え)をしようとしないうち、おもちゃを友達に貸せないとき、「ごめんね」が言えないときなど、保育者や保護者が子どもと関わる中で考えられる具体的な項目を立てて調べることにした。

III. 方法

1. 実施時期

2020年11月末に、調査実施したい施設にアンケートの趣旨および内容を説明し、研究結果を本研究報告のみの資料とし、他で使用しないこと及び施設などの実名を非公開にすることを文書にて依頼し実施した。

2. 調査対象者

アンケート調査に同意を得たA市内の認定こども園1園とB市内の認定こども園1園に通う年少児の保護者と、年少児を担当したことがある保育者を対象とした。対象者は年少児の保護者86名と、年少児を担当したことがある保育者26名である。

3. 調査内容

年少児は自我が芽生え、集団生活の中で多くの刺激を受けながら吸収が著しい時期であるので、保育者や保護者がどのような言葉がけをしているのかに視点を向けたアンケートを実施した。

生活習慣や友達との関わりの中でよく目にする行動に対しての言葉がけを問う、5項目の選択式のアンケートを行なった(図1、2)。言葉がけの例文は、筆者の幼稚園勤務の経験からよく使われていた言葉を取り入れるとともに、園長の意見も取り入れた。これらの例文を言葉がけの種類として大きくまとめ、意思を尊重する言葉がけ、他者と比較する言葉がけ、期待や達成感を持てる言葉がけ、共感し寄り添う言葉がけ、見本となる言葉がけ、否定的な言葉がけ、思いを伝える言葉がけ、物の気持ちを代弁する言葉がけ、脅しとなる言葉がけ、その他の欄を設け、各項目の選択肢を10個とし、その中から3つを選択してもらった。また、選択肢にない場合は、その他の欄で記述できるようにした。アンケートに言葉がけの種類を書くことと正直な回答が得られないと考え、言葉がけの具体的な例文のみを入れることにした(表1)。6項目は、保育者に対しては“年少児への言葉がけについて

困っていること”、保護者に対しては“お子様への言葉がけについて困っていること”について記述式で答えてもらった。

なお、本研究は令和2年度佐野日本大学短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て進められた(承認番号第20-07号)。

図1
年少児をご担当されたことのある保育者の皆さまへ

『子どもへの言葉がけに関するアンケート』

近年、若者のコミュニケーション能力の低下が言われ、小さな頃からの言葉の学びが重要となってきております。そこで、「保育者や保護者は、それぞれ子ども達にどのように関わり言葉がけをしているのか」「保育者養成するために養成校で身につけておくべきことは何か」を調査するために、年少児をご担当されたことのある保育者の方を対象に、児童への言葉がけについて教えていただきたいと思っております。お忙しいとは存じますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

なお、アンケートの結果は匿名を非公開として論文作成に使用させていただきます。

佐野日本大学短期大学 栗原恵

1. **【食事(嫌い)なものを食べずに残しているとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に食べなくていいよ」「食べようと思ったから教えてね」など
「お友達も嫌いな物にも挑戦して食べていいよ」「みんな残さず食べよう」など
「これを食べると強くなれるよ」「食べたらデザートだよ」「お皿もかきかきできるかな」「一口だけチャレンジしてみよう」など
「少し辛いよね」「先生も本当は苦手なんだ」「もうお腹いっぱいなのかな」「食べさせてあげようか」など
「(ババ・ママ)が食べてみるから見ていてね」など
「いつも嫌いな物だけ上手に残すね」「どうせ食べられないもんね」など
「これを食べたら先生嬉しいな」など
「ピーマン君が食べてって言っているよ」など
「これを食べないと鬼がくるよ」「食べないならもう出すのをやめね」など
その他()

2. **【トイレに行くのを嫌がるとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に言わなくていいよ」「行きたくなったら教えてね」など
「友達もトイレでおしっこ出たんだよ」「みんな行っているよ」など
「おしっこ出来たらお兄ちゃんになれるよ」「スッキリするよ」「トイレでおしっこ出るかな」「トイレの前まで行ってみよう」など
「まだおしっこ出ないのかな」「連れてってあげようか」「トイレ行きたくないよね」「洋服臭いもんね」など
「先生が先にトイレに行ってくるね」など
「いつも嫌がるよね」「どうせおしっこ出ないもんね」など
「トイレに行けたら先生嬉しいな」など
「○○ちゃん着てみて～ってお洋服が言っているよ」など
「トイレに行かないとオムツがくるよ」「もう行かなくていいよ」など
その他()

3. **【身支度(お着替え)をしようとしないうとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に着替えなくてもいいよ」「着替えようと思ったから教えて」など
「お友達と一緒に来ていたよ」「みんなお着替え終わっちゃったよ」など
「お着替え出来たら格好いいな」「出来たら準備万端だよ」「お着替えできるかな」「先生よりも早いかな」など
「まだ着替えたくないのかな」「着替えさせてあげようか」「着替えるの嫌だよ」「まだ選んでいいよ」など
「先生はお着替え臭いから見ていてね」など
「いつもお着替えに時間がかかるね」「どうせ着替えないもんね」など
「お着替え出来たら先生嬉しいな」など
「○○ちゃん着てみて～ってお洋服が言っているよ」など
「着替えないと洋服が逃げちゃうよ」「ずっとそのままのね」など
その他()

4. **【おもちゃを友達に貸せないとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に貸さなくていいよ」「貸せるときに教えてね」など
「お友達に貸してあげているよ」「みんな順番に使っているよ」など
「○○君にも貸してあげられたらすごいな」「貸すとお友達も喜ぶよ」「お友達に貸せるかな」「少しだけ貸してあげようか」など
「まだそのおもちゃで遊びたいのかな」「まだ貸さないよ」「まだ遊びたいよ」など
「先生はこうやってお友達に貸せるよ」など
「いつも綺麗にめっちゃうよね」「どうせ貸さないもんね」など
「お友達に貸したら先生嬉しいな」など
「○○君にも選んでほしいな～っておもちゃが言っているよ」など
「貸せないならもう遊ばないよ」「おもちゃらないのね」など
その他()

5. **【ごめんね】が言えないとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に今言わなくていいよ」「言えるときに教えてね」など
「お友達はごめんねが言えたよ」「みんなすぐに謝れているよ」など
「ごめんねって言えたらすごいな」「謝ると許してもらえるよ」「仲直りできるとスッキリするよ」「手を洗っていらるかな」など
「言えないかな」「先生と一緒に言えるかな」「言うのは勇氣があるよね」「少しづついいよ」など
「先生が先に謝るから見ていてね」など
「いつもごめんねが言えないよね」「どうせ謝れないもんね」など
「きちんと謝れたら先生嬉しいな」など
「○○君にも選んでほしいな～ってお友達も思っているよ」など
「謝れないならもう遊ばないよ」など
その他()

6. 年少児への言葉がけについて、困っていることなどありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

図1 アンケート

図2
年少児の保護者の皆さまへ

『子どもへの言葉がけに関するアンケート』

近年、若者のコミュニケーション能力の低下が言われ、小さな頃からの言葉の学びが重要となってきております。そこで、「保育者や保護者は、それぞれ子ども達にどのように関わり言葉がけをしているのか」「保育者養成するために養成校で身につけておくべきことは何か」を調査するために、年少児の保護者の方を対象にお子様への言葉がけについて教えていただきたいと思っております。お忙しいとは存じますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

なお、アンケートの結果は匿名を非公開として論文作成に使用させていただきます。

佐野日本大学短期大学 栗原恵

1. **【食事(嫌い)なものを食べずに残しているとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に食べなくていいよ」「食べようと思ったから教えてね」など
「お友達も嫌いな物にも挑戦して食べていいよ」「みんな残さず食べよう」など
「これを食べると強くなれるよ」「食べたらデザートだよ」「お皿もかきかきできるかな」「一口だけチャレンジしてみよう」など
「少し辛いよね」「(ババ・ママ)も本当は苦手なんだ」「もうお腹いっぱいなのかな」「食べさせてあげようか」など
「(ババ・ママ)が食べてみるから見ていてね」など
「いつも嫌いな物だけ上手に残すね」「どうせ食べられないもんね」など
「これを食べたら(ババ・ママ)嬉しいな」など
「ピーマン君が食べてって言っているよ」など
「これを食べないと鬼がくるよ」「食べないならもう出すのをやめね」など
その他()

2. **【トイレに行くのを嫌がるとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に言わなくていいよ」「行きたくなったら教えてね」など
「お友達もトイレでおしっこ出たんだよ」「みんな行っているよ」など
「おしっこ出来たらお兄ちゃんになれるよ」「スッキリするよ」「トイレでおしっこ出るかな」「トイレの前まで行ってみよう」など
「まだおしっこ出ないのかな」「連れてってあげようか」「トイレ行きたくないよね」「洋服臭いもんね」など
「(ババ・ママ)が先にトイレに行ってくるね」など
「いつも嫌がるよね」「どうせおしっこ出ないもんね」など
「トイレに行けたら(ババ・ママ)嬉しいな」など
「○○ちゃん着てみて～ってお洋服が言っているよ」など
「トイレに行かないとオムツがくるよ」「もう行かなくていいよ」など
その他()

3. **【身支度(お着替え)をしようとしないうとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に着替えなくてもいいよ」「着替えようと思ったから教えて」など
「お友達と一緒に来ていたよ」「みんなお着替え終わっちゃったよ」など
「お着替え出来たら格好いいな」「出来たら準備万端だよ」「お着替えできるかな」「(ババ・ママ)よりも早いかな」など
「まだ着替えたくないのかな」「着替えさせてあげようか」「着替えるの嫌だよ」「まだ選んでいいよ」など
「先生はお着替え臭いから見ていてね」など
「いつもお着替えに時間がかかるね」「どうせ着替えないもんね」など
「お着替え出来たら(ババ・ママ)嬉しいな」など
「○○ちゃん着てみて～ってお洋服が言っているよ」など
「着替えないと洋服が逃げちゃうよ」「ずっとそのままのね」など
その他()

4. **【おもちゃを友達に貸せないとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に貸さなくていいよ」「貸せるときに教えてね」など
「お友達に貸してあげているよ」「みんな順番に使っているよ」など
「○○君にも貸してあげられたらすごいな」「貸すとお友達も喜ぶよ」「お友達に貸せるかな」「少しだけ貸してあげようか」など
「まだそのおもちゃで遊びたいのかな」「まだ貸さないよ」「まだ遊びたいよ」など
「先生はこうやってお友達に貸せるよ」など
「いつも綺麗にめっちゃうよね」「どうせ貸さないもんね」など
「お友達に貸したら(ババ・ママ)嬉しいな」など
「○○君にも選んでほしいな～っておもちゃが言っているよ」など
「貸せないならもう遊ばないよ」「おもちゃらないのね」など
その他()

5. **【ごめんね】が言えないとき】**
どのような言葉がけをしますか？(主なもの3つ選択)
「無理に今言わなくていいよ」「言えるときに教えてね」など
「お友達はごめんねが言えたよ」「みんなすぐに謝れているよ」など
「ごめんねって言えたらすごいな」「謝ると許してもらえるよ」「仲直りできるとスッキリするよ」「手を洗っていらるかな」など
「言えないかな」「(ババ・ママ)と一緒に言えるかな」「言うのは勇氣があるよね」「少しづついいよ」など
「先生が先に謝るから見ていてね」など
「いつもごめんねが言えないよね」「どうせ謝れないもんね」など
「きちんと謝れたら先生嬉しいな」など
「○○君にも選んでほしいな～ってお友達も思っているよ」など
「謝れないならもう遊ばないよ」など
その他()

6. お子様への言葉がけについて、困っていることなどありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

図2 アンケート

表1 言葉がけの種類・具体的な例文

1. 苦手（嫌い）なものを食べずに残しているとき

| 言葉がけの種類 | 言葉がけの具体的な例文 |
|----------------|---|
| 意思を尊重する言葉がけ | 「無理に食べなくていいよ」「食べようと思ったら教えてね」など |
| 他者と比較する言葉がけ | 「お友達は嫌いな物にも挑戦して食べていたよ」「みんな残さず食べたよ」など |
| 期待や達成感を持てる言葉がけ | 「これを食べると強くなれるよ」「食べたらデザートだよ」「お皿ピカピカにできるかな」「一口だけチャレンジしてみよう」など |
| 共感し寄り添う言葉がけ | 「少し苦いよね」「(先生・パパ・ママ)も本当は苦手なんだ」「もうお腹いっぱいなのかな」「食べさせてあげようか」など |
| 見本となる言葉がけ | 「(先生・パパ・ママ)が食べてみるから見ていてね」など |
| 否定的な言葉がけ | 「いつも嫌いな物だけ上手に残すね」「どうせ食べられないもんね」など |
| 思いを伝える言葉がけ | 「これを食べられたら(先生・パパ・ママ)嬉しいな」など |
| 物の気持ちを代弁する言葉がけ | 「ピーマン君が食べてって言っているよ」など |
| 脅しとなる言葉がけ | 「これを食べないと鬼がくるよ」「食べないならもう出すのをやめるね」など |

2. トイレに行くのを嫌がるとき

| 言葉がけの種類 | 言葉がけの具体的な例文 |
|----------------|--|
| 意思を尊重する言葉がけ | 「無理に行かなくてもいいよ」「行きたくなったら教えてね」など |
| 他者と比較する言葉がけ | 「お友達はトイレでおしっこ出来ていたよ」「みんな行っているよ」など |
| 期待や達成感を持てる言葉がけ | 「おしっこ出来たらお兄ちゃんになれるよ」「スッキリするよ」「トイレでおしっこ出るかな」「トイレの前まで行ってみよう」など |
| 共感し寄り添う言葉がけ | 「まだおしっこ出ないのかな」「連れてってあげようか」「トイレ行きたくないよね」「洋服脱ぐと寒いもんね」など |
| 見本となる言葉がけ | 「(先生・パパ・ママ)が先にトイレに行ってくるね」など |
| 否定的な言葉がけ | 「いつも嫌がるよね」「どうせおしっこ出ないもんね」など |
| 思いを伝える言葉がけ | 「トイレに行けたら(先生・パパ・ママ)嬉しいな」など |
| 物の気持ちを代弁する言葉がけ | 「○○ちゃん来て～ってトイレが言ってるよ」など |
| 脅しとなる言葉がけ | 「トイレに行かないとオバケがくるよ」「もう行かなくていいよ」など |

3. 身支度（お着替え）をしようとしないうとき

| 言葉がけの種類 | 言葉がけの具体的な例文 |
|----------------|--|
| 意思を尊重する言葉がけ | 「無理に着替えなくてもいいよ」「着替えようと思ったら教えて」など |
| 他者と比較する言葉がけ | 「お友達は一人で出来ていたよ」「みんなお着替え終わっちゃったよ」など |
| 期待や達成感を持てる言葉がけ | 「お着替え出来たら格好いいな」「出来たら準備万端だよ」「お着替えできるかな」「(先生・パパ・ママ)よりも早いのかな」など |
| 共感し寄り添う言葉がけ | 「まだ着替えたくないのかな」「着替えさせてあげようか」「着替えるの嫌だよ」「まだ遊んでいたいよね」など |
| 見本となる言葉がけ | 「(先生・パパ・ママ)はお着替え早いから見ていてね」など |
| 否定的な言葉がけ | 「いつもお着替えに時間がかかるね」「どうせ着替えないもんね」など |
| 思いを伝える言葉がけ | 「お着替え出来たら(先生・パパ・ママ)嬉しいな」など |
| 物の気持ちを代弁する言葉がけ | 「○○ちゃん着てみて～ってお洋服が言っているよ」など |
| 脅しとなる言葉がけ | 「着替えないと洋服が逃げちゃうよ」「ずっとそのままでのね」など |

4. おもちゃを友達に貸せないとき

| 言葉がけの種類 | 言葉がけの具体的な例文 |
|----------------|---|
| 意思を尊重する言葉がけ | 「無理に貸さなくてもいいよ」「貸せるときに教えてね」など |
| 他者と比較する言葉がけ | 「お友達も貸してあげているよ」「みんな順番に使っているよ」など |
| 期待や達成感を持てる言葉がけ | 「〇〇君にも貸してあげられたらすごいな」「貸すとお友達も喜ぶよ」「お友達に貸せるかな」「少しだけ貸してあげようか」など |
| 共感し寄り添う言葉がけ | 「まだそのおもちゃで遊びたいのかな」「まだ貸せないよね」「まだ遊びたいよね」など |
| 見本となる言葉がけ | 「(先生・パパ・ママ)はこうやってお友達に貸せるよ」など |
| 否定的な言葉がけ | 「いつも独り占めしちゃうよね」「どうせ貸せないもんね」など |
| 思いを伝える言葉がけ | 「お友達に貸せたら(先生・パパ・ママ)嬉しいな」など |
| 物の気持ちを代弁する言葉がけ | 「〇〇君にも遊んでほしいなっておもちゃが言っているよ」など |
| 脅しとなる言葉がけ | 「貸せないならもう遊べないよ」「おもちゃいらなのね」など |

5. 「ごめんね」が言えないとき

| 言葉がけの種類 | 言葉がけの具体的な例文 |
|----------------|--|
| 意思を尊重する言葉がけ | 「無理に今言わなくてもいいよ」「言えるときに教えてね」など |
| 他者と比較する言葉がけ | 「お友達のごめんねが言えたよ」「みんなすぐに謝れているよ」など |
| 期待や達成感を持てる言葉がけ | 「ごめんねって言えたらすごいな」「謝ると許してもらえるよ」「仲直りできるとスッキリするよ」「手を繋いでいたら言えるかな」など |
| 共感し寄り添う言葉がけ | 「言えないかな」「(先生・パパ・ママ)と一緒に言えるかな」「言うのは勇気があるよね」「少し恥ずかしいよね」など |
| 見本となる言葉がけ | 「(先生・パパ・ママ)が先に謝るから見ていてね」など |
| 否定的な言葉がけ | 「いつもごめんねが言えないよね」「どうせ謝れないもんね」など |
| 思いを伝える言葉がけ | 「きちんと謝れたら(先生・パパ・ママ)嬉しいな」など |
| 物の気持ちを代弁する言葉がけ | 「仲直りしたいなってお友達も思っているよ」など |
| 脅しとなる言葉がけ | 「謝れないならもう遊べないよ」など |

IV. 結果

それぞれの項目について具体的に表していた言葉がけの例文によるアンケート結果と、例文を言葉がけの種類に置き換えてグラフにした結果を表2～7に示した。アンケートでは1人3つ選択してもらった為、人数の3倍をそれぞれの回答数とし、それぞれの割合を保育者と保護者に分けて示した。

全ての項目において、保育者・保護者ともに上位を占めていた言葉がけの種類は「期待や達成感を持てる言葉がけ」であったが、下位の言葉がけについては保育者と保護者

に変化が見られた。また、保育者においては5項目中4項目において全員が「期待や達成感を持てる言葉がけ」を選択し、全ての項目において「否定的な言葉がけ」を選択する者はいなかった。保護者においては、全ての項目において「他者と比較する言葉がけ」が保育者よりも多い傾向にあり、保育者と保護者の言葉がけの違いが見られた。

以下、結果をまとめた。

(1) 苦手(嫌い)なものを食べずに残しているとき

「期待や達成感を持てる言葉がけ」「思いを

伝える言葉がけ」の上位2つは保育者・保護者共に同じであったが、次いで保育者は「共感し寄り添う言葉がけ」や「見本となる言葉がけ」を行うのに対して、保護者は「意思を尊重する言葉がけ」をしていた。(表2)

(2) トイレに行くのを嫌がる時

保育者・保護者共に「期待や達成感を持てる言葉がけ」「意思を尊重する言葉がけ」が上位を占め、「否定的な言葉がけ」は0%であった。また、保育者は「物の気持ちを代弁する言葉がけ」が多くみられたのに対して、保護者は「見本となる言葉がけ」が多く見られた。(表3)

(3) 身支度(お着替え)をしようとしな

「期待や達成感を持てる言葉がけ」「共感し寄り添う言葉がけ」については保育者・保護者ともに上位を占めているが、下位に変化が見られた。保育者は「思いを伝える言葉がけ」「物の気持ちを代弁する言葉がけ」をしているのに対して、保護者は「他者と比較するよ

うな言葉がけ」「脅しとなる言葉がけ」をしていることが判る。(表4)

(4) おもちゃを友達に貸せないとき

保育者も保護者も上位4つまで同じ言葉がけの種類を選択していた。記述欄では、おもちゃを貸すタイミングとして、「5分経ったら」と時間を指定したりタイマーを利用する保護者が複数いた。(表5)

(5) 「ごめんね」が言えないとき

「期待や達成感を持てる言葉がけ」「共感し寄り添う言葉がけ」「物の気持ちを代弁する言葉がけ」がそれぞれ上位を占めている。保育者にあたってはこの3つについての回答数が最も多く、アンケート調査を行った保育者ほとんどがこの3つを選択した。(表6)

(6) 言葉がけについて困っていること

保護者の方が多くの意見を述べてくれた。(表7)

表2 苦手(嫌い)なものを食べずに残しているとき

保育者

| 1. 苦手(嫌い)なものを食べずに残しているとき | (78 回答) |
|---|------------|
| 「無理に食べなくていいよ」「食べようと思ったら教えてね」など | 9.0% (7) |
| 「お友達は嫌いな物にも挑戦して食べていたよ」「みんな残さず食べたよ」など | 0% (0) |
| 「これを食べると強くなれるよ」「食べたらデザートだよ」「お皿ビカビカにできるかな」「一口だけチャレンジしてみよう」など | 33.3% (26) |
| 「少し苦いよね」「先生も本当は苦手なんだ」「もうお腹いっぱいなのかな」「食べさせてあげようか」など | 14.1% (11) |
| 「先生が食べてみるから見ていてね」など | 14.1% (11) |
| 「いつも嫌いな物だけ上手に残すね」「どうせ食べられないもんね」など | 0% (0) |
| 「これを食べられたら先生嬉しいな」など | 15.4% (12) |
| 「ピーマン君が食べてって言っているよ」など | 10.3% (8) |
| 「これを食べないと鬼がくるよ」「食べないならもう出すのをやめるね」など | 0% (0) |
| その他 | 3.8% (3) |

(その他から)

- ・「どの野菜なら食べられそう?」と聞いてみたりする
- ・「これを食べると風邪をひかなくなるよ」
- ・「のどが痛いのが治るよ」

保護者

| 1. 苦手(嫌い)なものを食べずに残しているとき | (258 回答) |
|---|------------|
| 「無理に食べなくていいよ」「食べようと思ったら教えてね」など | 15.9% (41) |
| 「お友達は嫌いな物にも挑戦して食べていたよ」「みんな残さず食べたよ」など | 2.7% (7) |
| 「これを食べると強くなれるよ」「食べたらデザートだよ」「お皿ビカビカにできるかな」「一口だけチャレンジしてみよう」など | 32.2% (83) |
| 「少し苦いよね」「(パパ・ママ)も本当は苦手なんだ」「もうお腹いっぱいなのかな」「食べさせてあげようか」など | 9.7% (25) |
| 「(パパ・ママ)が食べてみるから見ていてね」など | 7.0% (18) |
| 「いつも嫌いな物だけ上手に残すね」「どうせ食べられないもんね」など | 0% (0) |
| 「これを食べられたら(パパ・ママ)嬉しいな」など | 17.1% (44) |
| 「ピーマン君が食べてって言っているよ」など | 8.9% (23) |
| 「これを食べないと鬼がくるよ」「食べないならもう出すのをやめるね」など | 3.9% (10) |
| その他 | 2.6% (7) |

(その他から)

- ・「給食では食べられるのになあ」
- ・「給食で食べられたから、お家でも食べられるかな?」
- ・「栄養あるよ」と言ってみる
- ・親:「今日はやめて明日は挑戦する?」、子:「うん」、親:「じゃあ今日は何て言う?」、子:「ごめんね」
- ・完全しなくても良いと思っている
- ・特に何も言わない

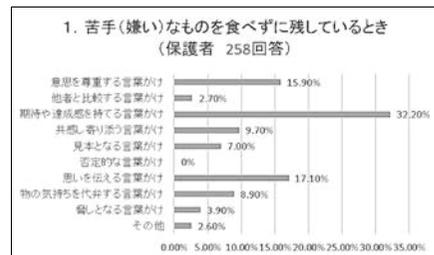
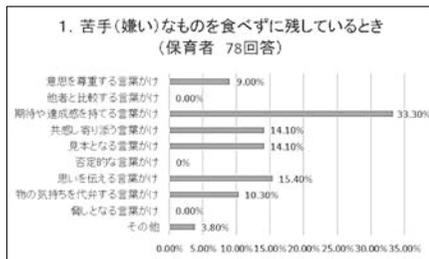


表3 トイレに行くのを嫌がるとき

保育者

| 2. トイレに行くのを嫌がるとき | (78回答) |
|---|------------|
| 「無理に行かなくてもいいよ」「行きたくになったら教えてね」など | 17.9% (14) |
| 「お友達はトイレでおしっこ出来ていたよ」「みんな行っているよ」など | 1.3% (1) |
| 「おしっこ出来たらお兄ちゃんになれるよ」「スッキリするよ」 | 33.3% (26) |
| 「トイレでおしっこ出るかな」「トイレの前まで行ってみよう」など | |
| 「まだおしっこ出ないのかな」「連れてってあげようか」「トイレ行きたくないよね」「洋服脱ぐと寒いもんね」など | 12.8% (10) |
| 「先生が先にトイレに行ってくるね」など | 5.1% (4) |
| 「いつも嫌がるよね」「どうせおしっこ出ないもんね」など | 0% (0) |
| 「トイレに行けたら先生嬉しいな」など | 10.3% (8) |
| 「○○ちゃん来て〜ってトイレが言ってるよ」など | 11.5% (9) |
| 「トイレに行かないとオバケがくるよ」「もう行かなくていいよ」など | 0% (0) |
| その他 | 7.8% (6) |

(その他から)

- ・「先生と一緒に行ってみよう」
- ・「おしっこ出るかな？出ないかな？」
- ・「お友達がしているところを見てみる？」とトイレに行く練習をする

保護者

| 2. トイレに行くのを嫌がるとき | (258回答) |
|---|------------|
| 「無理に行かなくてもいいよ」「行きたくになったら教えてね」など | 18.6% (48) |
| 「お友達はトイレでおしっこ出来ていたよ」「みんな行っているよ」など | 6.6% (17) |
| 「おしっこ出来たらお兄ちゃんになれるよ」「スッキリするよ」 | 26.7% (69) |
| 「トイレでおしっこ出るかな」「トイレの前まで行ってみよう」など | |
| 「まだおしっこ出ないのかな」「連れてってあげようか」「トイレ行きたくないよね」「洋服脱ぐと寒いもんね」など | 7.4% (19) |
| 「(パパ・ママ) が先にトイレに行ってくるね」など | 14.3% (37) |
| 「いつも嫌がるよね」「どうせおしっこ出ないもんね」など | 0% (0) |
| 「トイレに行けたら (パパ・ママ) 嬉しいな」など | 7.0% (18) |
| 「○○ちゃん来て〜ってトイレが言ってるよ」など | 5.4% (14) |
| 「トイレに行かないとオバケがくるよ」「もう行かなくていいよ」など | 2.3% (6) |
| その他 | 11.7% (18) |

(その他から)

- ・「あとで行かなくても知らないよ」「行かないとちびちやうよ」
- ・「行かなくて大丈夫？」「どっちが早いか、よいいどん！」
- ・「お腹のばい菌、おしっこで出とちやうよ」
- ・「お気に入りの人形を持ち」「トイレ行きたいから一緒に来て」「僕と行く？」と人形に頼る
- ・「トイレいけるようになったらお姉さんパンツだね」「カッコいいパンツが汚れちやうよ」
- ・「トイレ行ったらお出かけしよう」「出かけ先にトイレがないと大変だよ」
- ・「出なくていいから座ってみようか」と言ってみる
- ・「トイレに行くのを嫌がったことがない」

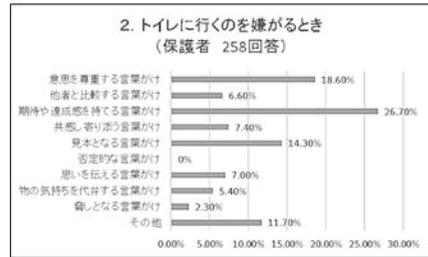
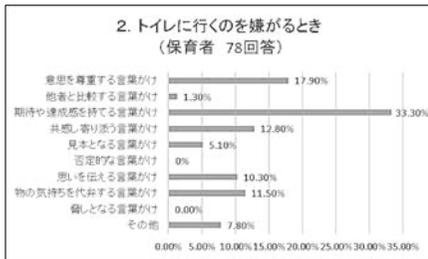


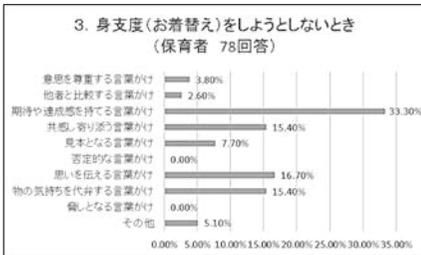
表4 身支度(お着替え)をしようとしないうとき

保育者

| 3. 身支度(お着替え)をしようとしないうとき | (78回答) |
|--|------------|
| 「無理に着替えなくてもいいよ」「着替えようと思ったら教えて」など | 3.8% (3) |
| 「お友達は一人で出来ていたよ」「みんなお着替え終わっちゃったよ」など | 2.6% (2) |
| 「お着替え出来たら格好いいな」「出来たら準備万端だよ」「お着替えできるかな」「先生よりも早いのかな」など | 33.3% (26) |
| 「まだ着替えたくないのかな」「着替えさせてあげようか」「着替えるの嫌だよ」「まだ遊んでいたよね」など | 15.4% (12) |
| 「先生はお着替え早いから見えてね」など | 7.7% (6) |
| 「いつもお着替えに時間がかかるね」「どうせ着替えないもんね」など | 0% (0) |
| 「お着替え出来たら先生嬉しいな」など | 16.7% (13) |
| 「○○ちゃん着てみて〜ってお洋服が言っているよ」など | 15.4% (12) |
| 「着替えないと洋服が逃げちゃうよ」「ずっとそのままのいるのね」など | 0% (0) |
| その他 | 5.1% (4) |

(その他から)

- ・「このお洋服を着たところが見たいな」「きつと似合うから着てほしいな」
- ・「出来なかったらお手伝いするからやってみよう？」
- ・「もしかして今日は1番にお着替えできるかな？」「昨日よりも早いね、すごいね。」
- ・「早くお着替えして遊ぼう」



保護者

| 3. 身支度(お着替え)をしようとしないうとき | (258回答) |
|--|------------|
| 「無理に着替えなくてもいいよ」「着替えようと思ったら教えて」など | 3.9% (10) |
| 「お友達は一人で出来ていたよ」「みんなお着替え終わっちゃったよ」など | 8.1% (21) |
| 「お着替え出来たら格好いいな」「出来たら準備万端だよ」「お着替えできるかな」「(パパ・ママ) よりも早いのかな」など | 28.7% (74) |
| 「まだ着替えたくないのかな」「着替えさせてあげようか」「着替えるの嫌だよ」「まだ遊んでいたよね」など | 18.6% (48) |
| 「(パパ・ママ) はお着替え早いから見えてね」など | 7.8% (20) |
| 「いつもお着替えに時間がかかるね」「どうせ着替えないもんね」など | 1.6% (4) |
| 「お着替え出来たら (パパ・ママ) 嬉しいな」など | 9.7% (25) |
| 「○○ちゃん着てみて〜ってお洋服が言っているよ」など | 5.0% (13) |
| 「着替えないと洋服が逃げちゃうよ」「ずっとそのままのいるのね」など | 8.1% (21) |
| その他 | 8.6% (22) |

(その他から)

- ・「何分で着替えられるかな？よいいどん」、ママや兄弟と競争する、タイマーをかける
- ・「早く着替えないと遅刻しちゃうよ。あと10分で出発です」とリミットを伝える
- ・「着替えないと留守番だね」「お着替えしたらお出かけしよう」
- ・「鳥さんが見てるよ、お腹パクって食べられたら大変。早く着替えよう」
- ・「一緒に洋服選ばう」「ゆっくりでもいいよ。自分でやってみよう」
- ・「最初はズボンだけはいってみて」と、1つずつやってみる
- ・「この洋服好きだよ。犬に着せちゃうよ」「お姉ちゃんが着ちゃうよ」
- ・「じゃあ先に○○してから着替えようか」と、ご飯や歯磨きを先にするなど順番を変える



表5 おもちゃを友達に貸せないとき

保育者

| 4. おもちゃを友達に貸せないとき | (78 回答) |
|---|------------|
| 「無理に貸さなくてもいいよ」「貸せるときに教えてね」など | 7.7% (6) |
| 「お友達に貸してあげているよ」「みんな順番に使っているよ」など | 16.7% (13) |
| 「〇〇君にも貸してあげられたらすごいな」「貸すとお友達も喜ぶよ」「お友達に貸せるかな」「少しだけ貸してあげようか」など | 32.1% (25) |
| 「まだそのおもちゃで遊びたいのかな」「まだ貸せないよね」「まだ遊びたいよね」など | 15.4% (12) |
| 「先生はこうやってお友達に貸せるよ」など | 5.1% (4) |
| 「いつも独り占めしちゃうよね」「どうせ貸せないもんね」など | 0% (0) |
| 「お友達に貸せたら先生嬉しいな」など | 9.0% (7) |
| 「〇〇君にも遊んでほしいなっておもちゃが言っているよ」など | 6.4% (5) |
| 「貸せないならもう遊べないよ」「おもちゃいらないのね」など | 1.3% (1) |
| その他 | 6.3% (5) |

(その他から)

- ・「一緒に遊ぼう」「順番こで遊ぼうか」
- ・「もう少し遊んだら貸してあげられるかな?」と様子を見る
- ・「まだ使っているから貸せないのかな?次に貸してあげてね」
- ・「お友達に持っててねとお話しようね」
- ・「幼稚園のおもちゃはみんなです使うものです」とルールを教える

保護者

| 4. おもちゃを友達に貸せないとき | (258 回答) |
|---|------------|
| 「無理に貸さなくてもいいよ」「貸せるときに教えてね」など | 3.1% (8) |
| 「お友達に貸してあげているよ」「みんな順番に使っているよ」など | 24.4% (63) |
| 「〇〇君にも貸してあげられたらすごいな」「貸すとお友達も喜ぶよ」「お友達に貸せるかな」「少しだけ貸してあげようか」など | 29.8% (77) |
| 「まだそのおもちゃで遊びたいのかな」「まだ貸せないよね」「まだ遊びたいよね」など | 13.2% (34) |
| 「(パパ・ママ) はこうやってお友達に貸せるよ」など | 3.1% (8) |
| 「いつも独り占めしちゃうよね」「どうせ貸せないもんね」など | 0.4% (1) |
| 「お友達に貸せたら (パパ・ママ) 嬉しいな」など | 10.1% (26) |
| 「〇〇君にも遊んでほしいなっておもちゃが言っているよ」など | 4.7% (12) |
| 「貸せないならもう遊べないよ」「おもちゃいらないのね」など | 5.8% (15) |
| その他 | 5.4% (14) |

(その他から)

- ・「どれなら貸せる?」と、聞くようにしている
- ・「あと少ししたら貸してあげようね」「あと〇回遊んだらお友達に貸そうね」
- ・「5分経ったら交換しようか」と言ってタイマーをかける
- ・「どうして貸せないの?」と、本人に聞かせる
- ・「他のおもちゃもあるよ」「向こうに楽しそうなおもちゃがあるよ」と興味を他へ向ける
- ・「〇〇は貸してもらえなかったらどんな気持ち?」「〇〇君も遊びたいんだって」
- ・「今は貸してあげて今度は違うので遊ぼう。友達が遊ばなくなったからまた遊ぼう」

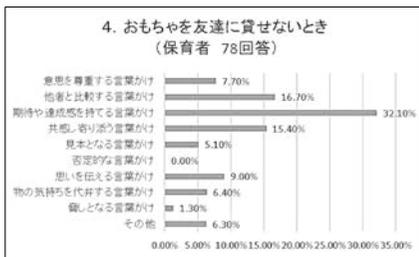


表6 「ごめんね」が言えないとき

保育者

| 5. 「ごめんね」が言えないとき | (78 回答) |
|--|------------|
| 「無理に今言わなくてもいいよ」「言えるときに教えてね」など | 3.8% (3) |
| 「お友達はごめんねが言えたよ」「みんなすぐに謝れているよ」など | 0% (0) |
| 「ごめんねって言えたらすごいな」「謝ると許してもらえるよ」「仲直りできるとスツキりするよ」「手を繋いでいたら言えるかな」など | 33.3% (26) |
| 「言えないかな」「先生と一緒になら言えるかな」「言うのは勇氣があるよね」「少し恥ずかしいよね」など | 28.2% (22) |
| 「先生が先に謝るから見ていてね」など | 1.3% (1) |
| 「いつもごめんねが言えないよね」「どうせ謝れないもんね」など | 0% (0) |
| 「きちんと謝れたら先生嬉しいな」など | 6.4% (5) |
| 「仲直りしたいなってお友達も思ってるよ」など | 24.4% (19) |
| 「謝れないならもう遊べないよ」など | 1.3% (1) |
| その他 | 1.3% (1) |

(その他から)

- ・「お友達が悲しい気持ちになってるよ」
- ・「もしお友達がごめんねをしてくれなかったら、〇〇君はどんな気持ちになるかな?」
- ・「ごめんね」が出来ること仲良く遊べるよ

保護者

| 5. 「ごめんね」が言えないとき | (258 回答) |
|--|------------|
| 「無理に今言わなくてもいいよ」「言えるときに教えてね」など | 2.7% (7) |
| 「お友達はごめんねが言えたよ」「みんなすぐに謝れているよ」など | 10.5% (27) |
| 「ごめんねって言えたらすごいな」「謝ると許してもらえるよ」「仲直りできるとスツキりするよ」「手を繋いでいたら言えるかな」など | 25.6% (66) |
| 「言えないかな」「(パパ・ママ)と一緒になら言えるかな」「言うのは勇氣があるよね」「少し恥ずかしいよね」など | 24.8% (64) |
| 「(パパ・ママ) が先に謝るから見ていてね」など | 2.3% (6) |
| 「いつもごめんねが言えないよね」「どうせ謝れないもんね」など | 0.8% (2) |
| 「きちんと謝れたら (パパ・ママ) 嬉しいな」など | 10.5% (27) |
| 「仲直りしたいなってお友達も思ってるよ」など | 12.0% (31) |
| 「謝れないならもう遊べないよ」など | 5.8% (15) |
| その他 | 5.0% (11) |

(その他から)

- ・「お友達は悲しい気持ちだからごめんね言おうね」「悪い事したらごめんねって言おうね」
- ・「悪かったと思うなら、何か言うことあるんじゃない?」
- ・「何で言うの?」と、本人に聞かせている
- ・なぜ、ごめんねを言いたくないのか話を聞く
- ・理由を聞いてから「これは良い事?悪い事?じゃあ何で言え方がいいのかな?」
- ・「お人形さんもごめんねしているよ。〇〇ちゃんもできるかな?」と促す
- ・「今は〇〇されて悲しかったと思うよ」と、謝ったほうが良い場面では相手はどう思っているか理由を伝える。本人の意思のこもっていない言葉に意味はないと思うので、「ごめんさいは?」などと、謝ることを強制しないようにしている

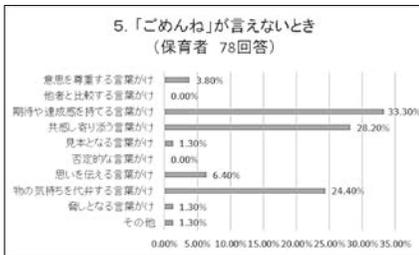


表7 言葉がけについて困っていること

| 保育者 | |
|-----|--|
| 6. | 年少児への言葉がけについて困っていること |
| ・ | まだまだ理解できないこと、少しずつ理解できてきたことが月齢によってまだ差がある学年なので、一人ひとりの成長に合った声掛けを心掛けるも、毎回難しいなあと感じています。 |
| 保護者 | |
| 6. | お子様への言葉がけについて困っていること |
| ・ | なるべく共感することを心掛けていますが、子どもに否があるときに子ども自身が否を認めることが難しいので、どのように伝えれば良いのか困っています。 |
| ・ | 作業中にほかに興味があるものが見つかると、そっちに気がそれてしまい何度も同じことを言わなくてはならなくなる。 |
| ・ | 上から目線になりがち。 |
| ・ | 狭めろ狭めろというが、それによって他人の評価を気にする子に育ってしまうのかなと思うと、出来たときの声掛けをどうしたら良いのか迷ってしまう。 |
| ・ | 我が家は、暴力(手が出た時のみ)“やられたらやり返しな”と教えているので、そうではなく違う考えの親との母子の関わりが難しいです。できるところで子ども同士で解決してほしいが、親がすぐ入ってしまうような方とのやりとりもあるので、時間に余裕があればいろいろ考えて声かけられるけど、余裕がないときは急がせてしまって逆効果になってしまいます。 |
| ・ | 自分の感情で優しく言える時や怒ってしまうことがある。こう言葉がけすべきとわかっていても出来ないことが多い。また、兄弟がいると難しいこともある。 |
| ・ | 何回言ってもふざけていて注意を聞かず、本気で怒られるまでやめないで、ついつい言葉がきつくなってしまいう時があるので困っています。 |
| ・ | 子どもが何人ものいると、なかなか優しく言っても上手くいかないときは多々あって、つい怒鳴ってしまったりするときもある。 |
| ・ | 本人がやる気を出してくれるような言葉がけは、どのようなものが良いのか。また、他の子と比べるようなフレーズは使いたくないと思いつつも、つい比べるような言い方をしてしまいがちで反省することがあります。 |
| ・ | つい強い口調で言ってしまう。顔が怖くなってしまふ。 |
| ・ | 困っていることではないかもしれないですが、常に子どもに寄り添った言葉がけをしたいとは思っていますが、時間に余裕がないときや心に余裕がないときなど、その時の親の状況によって言い方が変わってしまうこともあるので、あとあと後悔したりします。 |
| ・ | どうしても話を聞いてくれない、応答がないと「じゃあもうOOとお話しないね」という言葉をかけてしまいがちになり、それが子どもにとっては脅しになってしまっているのかなと思います。 |
| ・ | このアンケートを通じ、子どもに対し特段の言葉がけを行っていないことがわかりました。親として不安になりました。あまりイヤイヤと何かをしようとしなくていいことが少ない子どもではありますが、イヤイヤしたときは何も言わずに様子を見たり、「10分タイマー」を使うと気持ちの切り替えが出来るようです。何か特別な言葉がけをするべきなのでしょうか。 |

V. 考察

1. 保育者と保護者の言葉がけの違いによる観点

先行研究から、幼児期の子育てに関する親の悩みとして“食事について”の悩みが多いことが報告され保育士による保護者支援を求められているが、日常生活について具体的な言葉がけの報告はない。保育者と保護者における幼児への言葉がけの違いを見つけることで、保育者の資質向上と保護者支援に大きく影響するものと考えられる。したがって、本研究ではアンケート結果の異なっている点(言葉がけの違い)に着目して考察する。

(1) 苦手(嫌い)なものを食べずに残しているとき

保育者は「共感し寄り添う言葉がけ」や「見本となる言葉がけ」を行うのに対して、保護者は「意思を尊重する言葉がけ」をしていた。これは、集団生活が背景にあるという生活環境の違いからなのかもしれない。保育者として、好き嫌いをせずに食べることや残さず食

べること、時間内に食べることなど、基本的な生活習慣を子ども達に教えなければならない。保護者についても同様ではあるが、“いつでも食べさせてあげられる”という安心感から、「無理に食べなくてもいいよ」「食べようと思ったら教えてね」といった子どもの意思を尊重する言葉がけが多く見られるのではないかと推測される。また、保育者は限られた時間の中で少しでも多く食べられるようにするために、共感したり見本を見せたりすることが効果的だと考えているのであろう。田中⁸⁾の報告では、嫌いな野菜を食べられないAちゃんについて、実習生と保育者の言葉とかかわりが挙げられ、保育者が子どもの気持ちを受け止めながら言葉がけをすることで効果が得られているとある。これは、保育者が選択した「共感し寄り添う言葉がけ」と結びついているということが判った。

(2) トイレに行くのを嫌がるとき

保育者は「物の気持ちを代弁する言葉がけ」を行い、相手の気持ちの伝達や会話で表現を

していることが判る。ここでは、トイレを人のように例えて言葉がけをすることによって、3歳児の子ども達により伝わりやすくし、幼児の身近で言葉が飛び交うように配慮していると推測される。同時に、言葉の架け橋となる中心的な存在であるとも考えられる。それに対して保護者は「見本となる言葉がけ」を行い、実際に見本を見せるなどの動作で子どもに真似をさせようとしていることが判った。

(3) 身支度(お着替え)をしようとしな いとき

保育者は「思いを伝える言葉がけ」「物の気持ちを代弁する言葉がけ」をしているのに対して、保護者は「他者と比較するような言葉がけ」「脅しとなる言葉がけ」をしている。これは子育てに対する焦りや時間のゆとりの無さからなのかもしれない。保育者は、会話をしながら着替えられるように促し、自分の思いを伝えることで子どものやる気を見出そうとしていることが判る。そこには、上位にあった「共感し寄り添う言葉がけ」の具体例でもある“着替えさせてあげること”も視野に入れているため、それほど焦りははないのではないかと推測される。これに対して、保護者が他者と比較したり脅しとなるような言葉がけを選択している背景には、子育ての悩みが結びついていると考えた。すくすく子育て～全国のパパママに聞きました！子育ての悩みは何ですか？～⁹⁾の調査では、子育ての悩みの上位に“これでいいの？きょうだい育て”“ワンオペ育児でパンク寸前”“仕事と子育て、両立が難しい”といった生活様式の変貌による悩みが報告されている。ワンオペ育児により時間にゆとりが持てないことや、子育てに対する責任感などから、このような結果に結びつくということが判った。

(4) おもちゃを友達に貸せないとき

この項目については保育者も保護者も同じ言葉がけの種類を選択していたため、それほどの違いは見られなかった。しかし3歳児と

いうのは学年で言うと年少に該当し、主に集団生活のスタートを迎える年齢である。母子関係中心の家族環境から、社会という集団生活に踏み出し、その中で同年齢の子どもと関わりながら友達関係を広げていく。友達関係を上手く築いていってもらいたい親心も踏まえると、つい感情的になったり、どうにか友達におもちゃを貸せるようにとの願いから、時間を指定したりタイマーを活用することで子ども自身の気持ちの切り替えが出来るように、工夫を凝らしているのだと考えられる。

(5) 「ごめんね」が言えないとき

保育者と保護者の大きな違いは「他者と比較する言葉がけ」「否定的な言葉がけ」で、あった。共に選択者が0の保育者に対して、保護者の方では「他者と比較する言葉がけ」が特に多く選択されている。先に述べたように集団生活や友達関係が影響してくる他、“しつけ”という背景も考えられる。社会生活を営む上で必要な行動には、基本的な生活習慣や礼儀作法、善悪の区別など幅広い内容が含まれ、これらを子どもに教えていかなければならない。複数の子どもを保育している保育者は、客観的に見られるのに対して、保護者は子育てに対して主観的になりがちであるという立場の違いの表れであろう。

2. 保育者による観点

保育者においては、子ども達の自己肯定感を育てる保育が求められている。なぜなら、自己肯定感の土台は就学前までに形成されると言われており、保護者の他に多くの時間を接する保育者の役割が重要であると考えられるからである。

保育者は「期待や達成感を持てる言葉がけ」について5項目中4項目において全員が選択し、残りの1項目についても1名選択しなかったという99%の選択率となっている。「～できたらすごいな」「～できるかな？」と言葉がけを行う中で、その行為が出来た際には「えらいね」「すごいね」「頑張ったね」など

の言葉が続くと推測される。筆者の幼稚園勤務の経験でも、これらの言葉がけを行っていたと同時に、「～できてえらかったね」「～を頑張ったね」と、結果よりプロセスを具体的に言うことが求められていた。なぜなら、子どもの行なった行為を言葉で表すことで、より伝わりやすくなるからである。自己肯定感を育てるうえで大切となってくるのは“褒めること”“認めること”であり、本調査の「期待や達成感を持てる言葉がけ」と結びつくと考えられる。

また、全ての項目において「否定的な言葉がけ」を選択する者がいなかったのはなぜか。保育者という仕事は、子どもが好きで目指した職業であることや、憧れを抱いた保育者像など幼いころからの夢の実現であるとともに、保育者養成校で子どもの発達過程を学ぶことなどが影響しているのであろう。自我の芽生えから自己主張が明確となり、大人の意図や言葉通りにいかなくなる頃、「いつもお着替え嫌がるよね」「ここで遊んではダメ」と否定的な言葉がけをするのではなく、「ご飯とお着替えどっちからやってみる？」と選択肢を提示したり「この場所だと広いから思い切り遊べるよ」などと遊んでも良い場所を示したりし、否定的な言葉を肯定的に変えて関わるかかわり方を知っていることが大きな要因だと考えられる。乳幼児保育研究会¹⁰⁾は、年齢による発達の特性を知ること、子どもの細かな姿が明確に見えてくるのであると述べている。子どもと関わるうえで、発達段階を知り、理解することが重要となってくるのが推測される。

3. 保護者による観点

保護者においては、全ての項目において「他者と比較する言葉がけ」が保育者よりも多い傾向にあるが、親として子どもを育てる責任感から、同年代の子どもと比べてしまったり、我が子がかわいい故に感情的になりやすかったりするのではないかと推測される。

子育て支援のイベントに参加している親子でよく見られるのが“物の取り合い”の場面である。子ども同士、言葉はままだらないものの意思をしっかりと持っているため、おもちゃの取り合いになることがある。その時、保育者はお互いが怪我しない程度に近くで見守るのに対して、保護者は取り合いをさせずにおもちゃを相手に貸すように促すのである。親として間に入ることは決して悪い事ではないが、このような行動をすることで友達と関わる経験を狭めていってしまうのではないかと考えられる。集団生活では、同年代の友達との関わりも貴重な学びであるからこそ、親が先回りしてやってしまうのではなく、一歩下がって見守り、経験をさせてあげることも大切であるのかもしれない。また、このような場面で同年代の子どもの成長を見ることができるのも、子育て支援の魅力の一つなのではないだろうか。子どものみならず保護者にとっても刺激を受ける環境であり、自分の子育てについて再確認できる場でもあるからこそ、「○○君はもう～ができる」「うちの子はまだ～もできていないのに…」と、他者との比較が生まれるのではないだろうか。試行錯誤しながら子育てを頑張っているからこそ、他者を意識してしまうのであろう。

VI. まとめ

保育者は専門的な知識を学び、複数の子どもを保育していることから、子ども達を客観的に見て関わるができるのに対して、保護者は日々の子育ての中で主観的に関わり、感情的になりやすいという立場の違いから、子どもに対する言葉がけに違いが出てきているということがわかった。生活様式の変貌により、幼児を取り巻く環境が変化していることもあるが、親が中心となって子育てすることに違いはない。子育てには正解というものがないからこそ、日々悩みが尽きないものである。保護者は言葉がけの大切さを認識して

はいるが、感情的になってしまうこともあることがわかった。だからこそ、他の子と比べてたりどのように関わると良いのか試行錯誤したりしながら、対応策を見つけていくことが大切である。その保護者に対して、専門的な知識を学んだ保育者が支援していく必要性を感じた。人と人が言葉を交わし合う場面が減少傾向にあるからこそ、幼児の発した言葉の意味をくみ取るとともに、言葉そのものの魅力を大人が感じ、幼児への言葉がけを通して伝えていく必要がある。その一歩として、実際に保育者が年少児に行なった言葉がけやその時の反応などを保護者に伝えるということで保護者支援に繋がるのではないかと。送迎時の会話を濃厚にすることで、園での様子・家庭での様子を互いに共有し合うことができる。また、ホームページやおたより、連絡帳などでも同じことが言える。保育者が園で行なっている様々な取り組みや子ども達の日々の様子を、保護者に伝えていくことが大切ということである。このようにコミュニケーションをとっていくことで、様々な情報をお互いに習得し、言葉がけにもレパートリーが増えるのではないかと。

「否定的な言葉がけ」や「脅しとなる言葉がけ」が出そうなときには一度飲み込み、否定的な言葉を肯定的に変えて関わるができること、より良い言葉がけとなるのではないかと考える。これから保育者となる養成校の学生にも、保育者と保護者の実態を踏まえたくてコミュニケーションの大切さを伝えていくとともに、肯定的な言葉がけや自己肯定感を育てるための保育ができるような指導が必要である。また、子どもの発達を知ることによって“～をすると、こうなる”という見通しがたち、「子ども観」を深めた保育を行うことに繋がるため、“子どもの発達を知る”という専門的な知識を学ぶことも養成校で身につけておく必要がある。

要約

年少児に対して、保育者と保護者では言葉がけの違いがあるのかを調べ、保育者として何を求められているかの研究である。保育士と保護者では言葉がけの違いがあった為、専門的な知識を活かして保護者支援をしていくことが大切であるとともに、保育者・保護者間のコミュニケーションを更に充実させる必要があるということが判った。

謝辞

本調査にあたり、協力していただいたA市内の認定こども園とB市内の認定こども園の園長先生をはじめ先生方、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 岩崎裕香 (2007) 保育者の言葉がけが幼児の遊び行動に及ぼす影響について. 金沢大学学長研究奨励費研究結果論文集(3)、20-25.
- 2) 麻生良太・花坂歩 (2020) 乳幼児期に求められる「言葉」の教育～幼稚園での教育実践を視野に～. 大分大学教育学部研究紀要 41 (2)、244-254.
- 3) 今井靖親・中村年江 (1990) 幼児期の子育てに関する親の悩み. 奈良教育大学教育研究所紀要 26、25-33.
- 4) 岸本美紀・武藤久枝 (2013) 保護者が望む保護者支援のあり方～幼稚園と保育所との比較～. 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要 47、17-24.
- 5) 丸目満弓 (2015) 保護者支援の前提となる保育士と保護者間コミュニケーションに関する現状と課題～保護者アンケートを中心として～. 大阪総合保育大学紀要(9)、173-194.
- 6) 高橋真由美 (2015) 保育所における保護者支援研究の現代的課題. 藤女子大学QOL 研究所紀要 10 (1)、141-146.

- 7) 厚生労働省 (2018) 保育所保育指針.
- 8) 田中麻紀子 (2018) 子どもの気持ちを
引き出す保育者の言葉とかかわり. 夙川学
院短期大学教育実践研究紀要 2018 (11)、
13-23.
- 9) すくすく子育て～全国のババママに聞き
ました！子育ての悩みは何ですか？～
(2019).
[https://www.nhk.or.jp/sukusuku/p2019/771.
html#a4](https://www.nhk.or.jp/sukusuku/p2019/771.html#a4) (最終アクセス日：2021年1月10
日)
- 10) 乳幼児保育研究会 (2010) 発達がわか
れば 子どもが見える～0歳から就学まで
の目からウロコの保育実践～. 田中真介監
修. 株式会社ぎょうせい.